

【全体概要】

西尾市の大豆栽培は愛知県平均を上回る収量をあげているが、天候の影響も大きいいため収量の年次変動が大きい。大豆の安定多収栽培のためには、開花期までの適度な生育量の確保、生育中期における着莢数の確保、生育後半の窒素栄養の確保が必要である。そのため、全量基肥施肥における肥効調節型肥料の効果を実証し、収量の増加、大粒率向上など品質向上を目指す。

新品種・新技術等の概要

【大豆肥効調節型肥料の実証】

全量基肥施肥における肥効調節型肥料により、大豆の収量向上と大粒比率など品質の向上を図る。開花期以降に肥効が現れることで、生育後半の窒素栄養確保が期待できる。肥効調節型肥料2銘柄を実証試験する。



主な取組内容

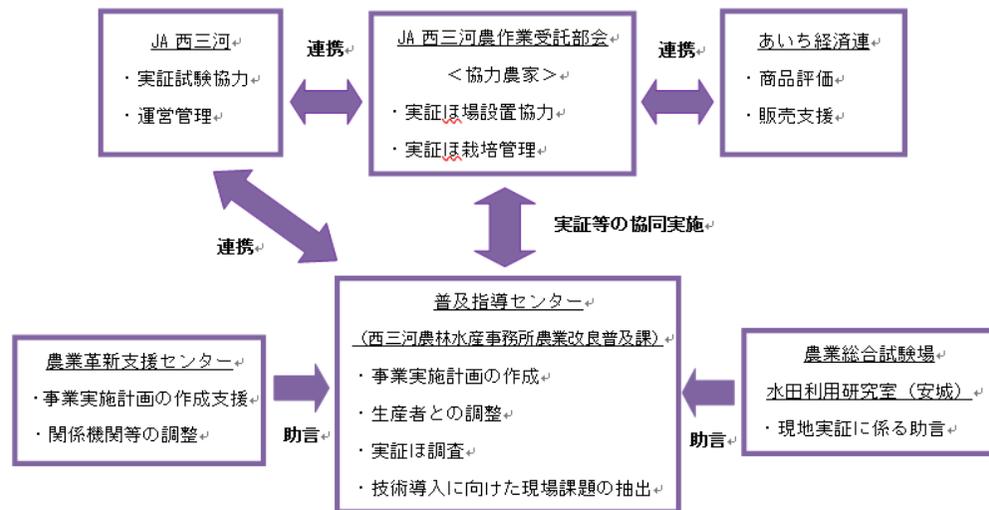
【生育調査及び収量調査】

- 実証ほ場の設置(7月)
- 生育調査<開花期、子実肥大期、成熟期>(8月～11月)
- 収量・品質調査(12月)
- 情報交換会(9月～2月)

【品質評価】

- 成分分析及び豆腐加工適性試験(2月)
- 豆腐加工試験(2月)

実施体制図



課題と今後の対応

【課題】

1年目の実証試験では、慣行区(無施肥)と比較できる11か所のうち6か所で試験区の方が慣行区よりも収量及び大粒率が上回ったが、全体平均では明確な差が確認できなかった。西尾市内の地域別に適応性を評価するなどの必要がある。

【今後の対応】

- 2年目の実証試験の実施
- 地域適応性評価
- 経済性評価